

## 口頭発表

## 図画工作科における動物介在教育の有用性についての検討

佐藤美月\*・的場美芳子

株式会社プロキオン

## Animal Assisted Education: Benefits and Implications for Arts and Crafts in Early Education

SATO Mizuki\*, MATOBA Miyoko

## 緒言

2017年の図画工作科の教科目標は「見方・考え方」を働かせることを示す一文と、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」で示されている。<sup>1)</sup> 2016年の調査では、図画工作を小学生の90%が好きだが、相対的に「大切さ」を感じていないということが報告されている。<sup>2)</sup> 吉村は、学校では見栄えのよい作品づくりのための技術指導にばかり目が向けられて、本来大切にされるべき子どもが関心や意欲をもって発想を広げ主体的に取り組む創造活動が十分なされていない現状があると問題定義している。<sup>3)</sup> このような背景を踏まえ、動物介在教育の特徴といえる「動物の存在は子どものご褒美となる」「子どもと動物の間の相互作用がある」<sup>4)</sup>を活かして、教育支援犬<sup>註1)</sup>を図画工作科の教材化することは図画工作科の指導の一助になると考えた。

動物介在教育の教科導入において、重要なポイントは対象教科の学指導要領に則った学習支援計画書の作成である。本研究では、小学1,2年生の図画工作科における動物介在教育の有用性について検討した。

犬の足裏を観察した後、足裏をペイントした画用紙を用いて児童がその形や色、イメージの面白さに気づき、新小学校学習指導要領の図画工作科の目的の一つである「創造的につくったり表したりすることができるようにする」ことを達成できるという仮説を立てた。

## 方法

研究仮説の手立て：公益社団法人宮城県獣医師会(以下、宮獣)が主催する、犬と一緒に、好きなものを描いたり作ったりすることの快さと楽しさを味わうことで、犬との新しいふれあいを伝えることを目的に

した「動物介在教育(Animal-assisted Education)」イベント(2018年度)の中で、小学校低学年の図画工作科を想定して「絵画教室」を行い、児童の絵画作品を分類し、鑑賞時のコメントを集計し分析する。

抽出児童：宮獣のイベントは、イベント「誰でもピカソ! わんこと一緒に絵画教室」告知

要項の中で、絵画教室の目的を明記して参加募集を行った。保護者に絵画教室の説明と作品(映像記録)と感想コメントの同意を承諾した児童(5歳～10歳)、53名。

誰でもピカソ! 「わんこと一緒に絵画教室」の内容(学習活動)

1. 目標：犬と一緒に好きなものを描いたり作ったりすることの快さと楽しさを味わう
2. 学習計画(40分)
  - ① 犬の足裏の観察をする(5分)
  - ② 犬の足裏をペイントして画用紙に足裏をつけ、その形を観察する(10分)
  - ③ 犬の足裏ペイントの画用紙(102×152)を選び、作成に必要なクレヨン、絵の具、筆、スポンジなどを選ぶ(5分)
  - ④ 選んだ③の画用紙に絵を描いていく(15分)
  - ⑤ 作品の写真を撮り、工夫した点などのコメントを述べる。(5分)

## 3. 注意事項

介在犬(教育支援犬)の活動準備として、事前に足裏の毛を刈り、脚を持たれることや、足裏を筆やスポンジで撫でられても静かにしてられるようにトレーニングした。

## 結果

絵画作品は、①足裏の形を活かした作品である。

\*連絡先：info@koinuza.co.jp(株式会社プロキオン)



(図：絵画作品)

②色を3色以上用いている。③技法（絵具の合わせ方やスポンジや筆使いなど）に工夫している。という3つのカテゴリーに分けた。カテゴリーの設定や仕分け作業は、客観性を持たせるために3人で行った。その結果は、①は6.97%②は90.57%③は37.74%であった。次に、作品を描いた後のコメント（インタビューの記録）を、①工夫したところ②何をイメージしたか③感想（楽しい）④感想（難しかった）⑤その他、に分けて集計をした。その結果は表1に示した。全体のコメントからの割合は、①6.58%②46.05%③26.32%④5.26%⑤14.47%であり、足裏からのイメージを膨らませ、活動が楽しかったことが分かった。

## 考 察

作品は抽象画、風景画、動物画と多岐にわたり、犬の存在が絵画作成への意欲はもとより、発想や構成につながったことが示唆された。故に、研究仮説の犬とのかわりという体験を通して、学習指導要領で示す図画工作科の目的の一つ「創造的につくったり表したりすることができるようにする」ことが達成できたと考える。

## 謝 辞 (Acknowledge)

動物介在教育イベントを企画運営下さいました公益社団法人宮城県獣医師会様、誰でもピカソ「わんこと一緒に絵画教室」にご参加ご協力いただきました児童の皆様に心より感謝申し上げます。

## 参考文献

- 1) 小学校学習指導要領解説 図画工作編, 日本文教出版, 2018.
  - 2) 小学校図画工作科教育法, 山口喜雄編, 健帛社, 2018.
  - 3) 吉村 茂, 図画工作科における関心・意欲を高める指導の在り方, 奈良県立教育研究所研究紀要, 2018.
  - 4) 動物介在教育アシスタント基礎編 改訂版, 動物介在教育・療法学会, 2016.
- 註1) 教育支援犬とは、「教科学習の目標（目的）を達成するためにいのちある教育のツールとして活用する犬」と動物介在教育・療法学会では定義している。